

就労は究極のリハビリである

～障がい当事者の立場から企業における雇用継続職場定着の取組を考察する～

- 遠田 千穂 (富士ソフト企画株式会社 企画開発部 部長)
- 高橋 綾子 (富士ソフト企画株式会社 企画開発部 サブリーダー)
- 畑野 好真 (富士ソフト企画株式会社 企画開発部)

薬だけでは障がいは軽減されない。服薬と社会参画・働くことで、障がいは軽減される。障がい者が働く機会と場所を拡大することで、日本の経済も活性化し、医療費削減にもつながる。

誰一人取り残さない社会を目指すSDGsの概念の実践である。

富士ソフト企画株式会社は富士ソフトの特例子会社であり、社員の9割が障がい者手帳を保有する。身体、知的、精神、発達の障がいのある方々がお互いにサポートをしながら業務を進める。



規則正しい職業生活や社会参画から生まれる自己充足感は幸せホルモンであるセロトニンの分泌を促し脳にも良い影響を及ぼす。

社会や人からも必要とされているという実感は精神的安定につながる。
静かな環境・適切な休憩時間などのごく普通の合理的配慮があれば働くことが出来る。

合理的配慮とは一方通行ではなく、お互いに行き来してこそ成立する。
障がい者健常者がお互いに配慮し合うことで、高い業務効率が得られる。
健常者は障がいのある方に何かしてあげなくては、ではなく、何かを手伝って貰おうという
逆転の発想を心掛ければ、障がい者の雇用が促進され職域が広がる。



万が一の時の為、社員証の中に緊急連絡先カードを入れ運んでほしい病院と緊急連絡先を明記している。

またTOIECの点数が900点を超えている社員には、翻訳の仕事をお願いすることもある。

得意分野を活かすことで、モチベーションや昇給昇格に繋がる。

障がい者の職業訓練の講師や、管理職として部下を指導育成することで発作が十数年間起きていない社員もいる。



出勤率にカウントされない通院休暇を活用した毎月の通院、日々の服薬、JOBサポート窓口にいつでも相談できるという安心感も職場定着につながる。

JOBサポート窓口とは、困ったことがあれば、何でも相談できる窓口で、常時4名のJOBサポーターがメールで受け付け、面談で解決方法を共に探す窓口である。4名は3～4年で入れ替わる。月に一回社長同席のJOBサポート会議を開催。

企業在籍型職場適応援助者の資格を取ることで障がい当事者も、カウンセラーの役割を担うことが出来る。

身体障がい者が知的障がい者をサポートすることにより運動機能の回復が見られる
(パソコンを使った業務で脳に刺激が毎日行くことも一因)

知的障がい者が発達障がい者をサポートすることによりIQが上がる
(出来なかったことが出来る様になる)

発達障がい者が精神障がい者をサポートすることによりコミュニケーション力が向上する
(相手を思いやる気持ちが芽生える)

精神障がい者が他の障がい者をサポートすることにより薬が減り夜良く眠ることができる
(他者へ配慮することに意識が向いて行く)

自宅に引きこもって自分の障がいと悶々と向き合うより、
外に出て自分と異なる障がいのある方をサポートすることにより



障がいは軽減される。就労は究極のリハビリである。

障がいは他人事ではなく、いつ誰が発症してもおかしくないのが障がいである。

そうなった時にどうすれば働きやすい会社か、どうすれば生きやすい社会かを常に考えておけば慌てることはない。薬の副作用で苦しみなながらも、通勤をすることがどんなに尊いことであるか、相手の立場に立って考えることも必要である。

1人でも多くの障がいのある方々が様々な業種で活躍されることを目標に据える。



～三方良しのみならず八方良しの障がい者雇用～

市 労働力人口が増え税収が入る

本人 障がいが軽減される

企業 人手不足解消

国 医療費削減

病院 病床回転率UP

労働 労働力人口増

経済 経済の活性化

家庭 引きこもり5080問題解消

